

あかがし

ほんざんじやまもり かい
本山寺山森林づくりの会会報(第4号)



2018 5 20

天狗杉付近の縦ノ木

撮影 武田壽夫

モットー **出来るときに 出来ることを 無理なく安全に**

2019年度 活動報告

活動は4月4日(木)からスタート。例年、暑い時期は44林班を、寒い時期は45林班を活動領域としており、2019年度は4月・5月は45林班を中心に活動し、6月から44林班に移った。本山寺山国有林は人工林が多いので、そこを中心に活動することになる。風倒木の処理、林床整備(含土留め棚積)、枯損木の除伐、作業道の整備、自然歩道の保全が主な作業で、6月から8月は林床整備に加え、自然歩道沿いのラップ巻き(ナラ枯れ防止効果あり)の回収作業、安全研修、見学者の受け入れ、9月は本山寺~天狗杉間の自然歩道の水切り溝の保全作業も行った。10月は去年の台風で傷めつけられたモニタリング調査区①の整備、モニタリング調査区②から南東の斜面の土留めを含む林床整備がやり残されていたので整備する。

11月から45林班区域に活動場所を移した。間伐放置木や落枝の処理、枯損木の除伐作業が主な内容で、11月・12月は過密常緑広葉樹の除伐、枝打ち。ひと雨降れば崩壊寸前になる作業道の整備は地中の岩盤のため杭を打ち込みにくかったり、浅くて軟弱なため打ち込んでも固定しなかったり苦勞する。本山寺山の林床整備は土留め作業を欠かせない。急斜面で作業には危険が伴うが、それだけに土留めが一層必要である。1月3日は本山寺の大護摩供養。お酒を供え作業の安全を祈願。2月は降雪・降雨により定例の活動が2回とも延期せざるを得ないハプニングもあった。3月、猛烈な吹雪の春の嵐のなかで、今年度まで3年間の事業として取り組んできたモニタリング調査区の仕上げを行った。下旬の定例日はコロナウイルス対策のため中止となった。



昼食休憩中

2019年度 月毎の参加人数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
回数	2	2	2	1	2	3	2
人数	26 総会	23 体験2名	30	12	19 見学者8名 夜間観察会 納涼会	28	24 見学者4名
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
回数	2	2	2	3	1	回数	24回
人数	22 体験1名	27 納山会	24 体験1名 本山寺初寅会	23	8	会員参加	262名 (木)13回 140名 (日)11回 122 体験参加 4名

写真で振り返る1年

自然歩道の水切り補修 2019・4・4



資料を手に研修会 8・18



本山寺大護摩で安全祈願 黄色ヘルメットが会員
2020・1・3



台風で折れた松の処理 2019・6・6



急斜面での土留めづくり 10・20



吹雪の中の打ち合わせ 2020・3・5



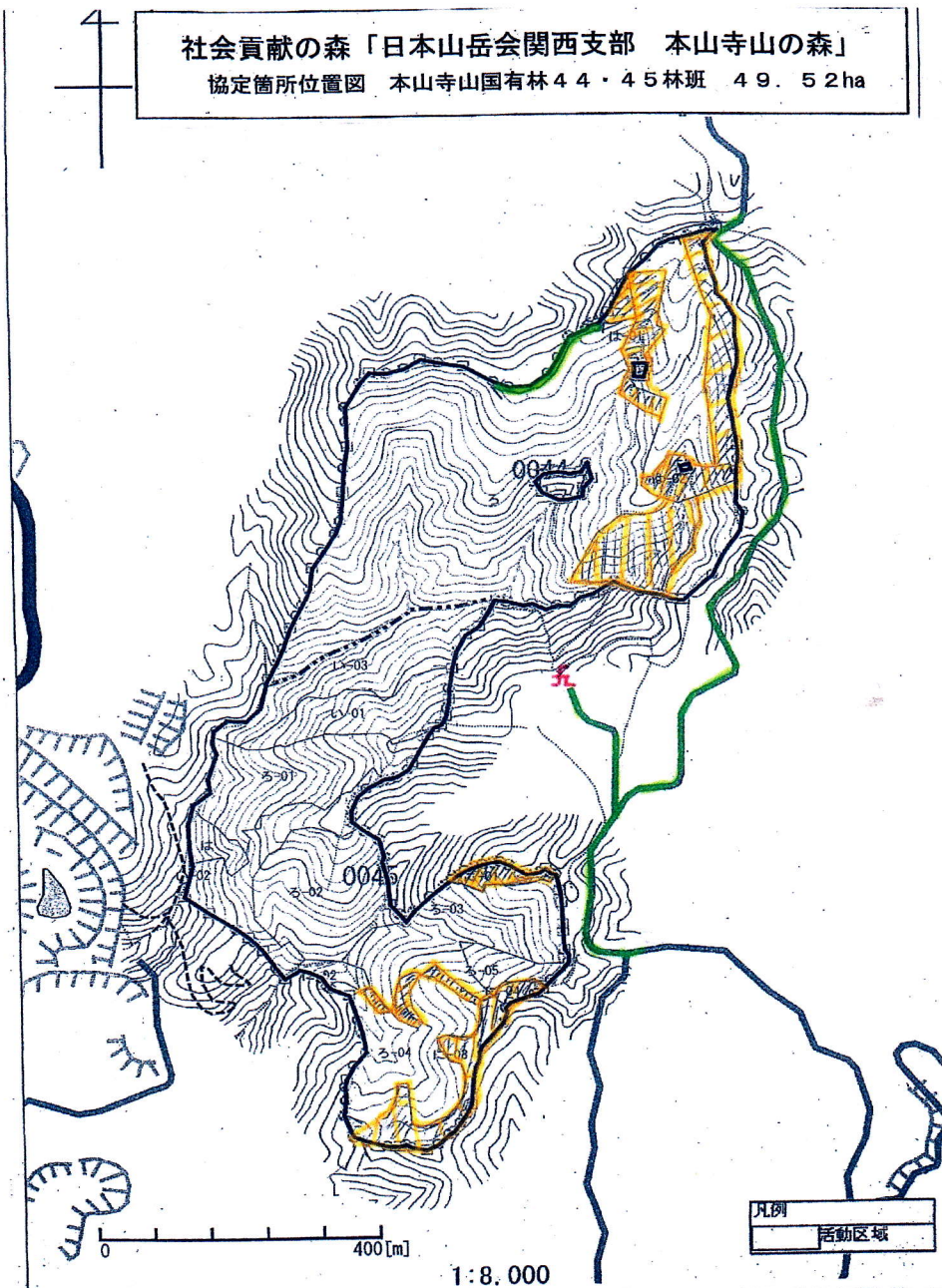
2020年度 活動計画

今年度は、近畿・中国森林管理局との「社会貢献の森協定」(5年間)を更新する年度であり、また、林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策事業」の新事業地域での向う3年間の採択申請の初年度となる。本会設立9年目でひとつの区切りを迎える年となる。

新年度の活動は新型コロナウイルスの感染拡大により先行き不透明で、総会も後へずれ込むこととなった。活動計画としては例年と同じく”夏“44林班、”冬“45林班を基本とし、林小班「ろ」(人工林)の森林保全活動や過密な林小班「に」(天然林)の常緑広葉樹の除伐を中心に森林環境の保全活動を行う。特に44林班は、一昨年の台風による倒木等の被害が広範囲に及んでいるので復旧活動に重点を置くとともに、ハイカーに目につく自然歩道沿いの整備状況に留意したい。

45林班は台風被害の常緑広葉樹の伐木を中心に森林保全の作業を進めることとする。

既存の作業道の保全に努め、新たに44林班内林小班「ろ」に300mを設置する。モニタリング調査区は、それぞれの特徴を踏まえて4か所に設置する。



会員の声

(五十音順)



泉家恵子

老後の楽しみを増やそうと模索している時に、森林保護の活動が本山寺山で行われていると山仲間から教わりました。すると、小学生の頃の楽しかった柴刈りに松茸取りや、高校生の頃に将来は営林署関係の仕事に就きたいと話すと、女だからダメと頭から否定されたことも

瞬時に蘇り、山に関われるのなら入会しようと決めました。

森で作業をしていると自然な自分、子どもの頃の素のままの開放された感覚になります。やっぱり山が好きなんだと実感します。何時までもこの美しい自然環境が保持され、次世代の子どもたちに残したいと願っています。

本山寺山森林づくりの会の活動は森林保全の一翼を担っており、微力ながらも役に立っていると思うと気持ちが高揚します。会では、安全対策として講習が行われ、必要な装備や道具が整えられています。そして、何より嬉しいのは各人の体力に

合わせ、参加できる時に、出来る事を、出来る範囲で協力して作業が進められることです。おかげで、体力のある男性陣に混ざっての作業も気後れすることなく行動しています。

今は体調不良のため登山は無謀と諦めています。能力に応じて動ける森林づくりに関わって感謝しています。体が動くかぎり会員の皆様と長く、そして楽しみながら活動を続けられたらと思います。これからも宜しくお願いします。



大本孝子

私は幼少期、札幌市内で3年ほど過ごし、冬になると円山球場の屋外スケート場へ、付近のスキー場へ行ったものです。また、短大時代には、ヨット部に所属して琵琶湖でディンギーに乗っていました。そして、子育て中の17年ほど前から走り出して、直ぐに京都の低山へと

走りに出かけました。今はと言うと、同じように週1.2回ほど走りに出かけ、2018年11月頃より山田さんのお声がけで、第3日曜には「本山寺山森林づくりの会」にでき

るだけ参加させて頂いております。

自然の中にいるのが好きです。諸先輩方が3.4回のこぎりを引いて終わるところをその傍らで延々と格闘している自分が楽しいです。山、自然を守る意識と言うより、今は山の中で学んでいる事、楽しめている事に感謝しています。

今は微力ですが、少しでも皆さんから色々な事を学び、理解して行動でき、この先こういった活動を知らない人達へ広めていけるように少しずつ歩んでいきたいと思います。

今後ともご指導のほど、宜しくお願い致します。

「山の日」 制 定 2014年5月23日

国民の祝日の一つ。8月11日。日本では国土の約7割を山が占めることから、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝することを趣旨として2016年より施行される。本祝日が制定される前にも地方自治体や、山岳に関連する協会では独自に山の日を制定していた。1995年に海の日が国民の祝日として制定されると、山の日も国民の祝日にするべきとの声が徐々に高まり始めた。2010年には山岳5団体（日本山岳協会、日本山岳会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト）が共同で山の日制定協議会を発足。国や地方自治体への働きかけや、周知活動を実施した。このような活動が実を結び、国民の祝日として制定されることとなった。

2020年は8月10日（月）になります。（オリンピック開催計画があったため）

おおさか「山の日」 制 定 2005年6月14日

趣旨（要約）

府民が身近にある森林の重要性を認識し、府民協働で森林を保全していく。

「山に親しむ推進月間」を毎年11月とする。

おおさか「山の日」を毎年11月第2土曜日とする。

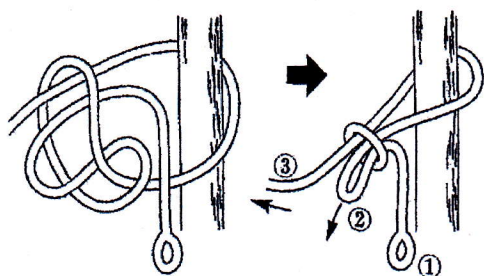
安全な作業のために

「ロープの結び方」

伐木の際の補助として、あるいは倒木処理をする際に、また急斜面で身体確保するためにロープを使いますが、よく使う結び方を紹介します。

『引き解け結び』

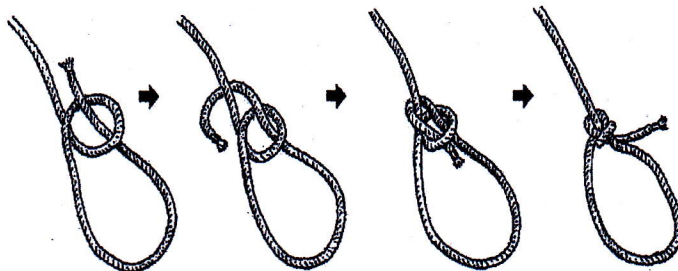
① を引けば直ぐ解ける



『もやい結び』

「結びの王」とも言われ、

結び目が動かないため用途が広い



「スリング (英) シュリング (独)」ベルト



倒木を処理する場合、ロープより扱いやすく便利である。岩登り用としても形や種類は様々あるが「スリング又はシュリング」という。本来は玉掛け（クレーンに物を掛け外しする作業のこと）作業用の道具。耐用年限がある。

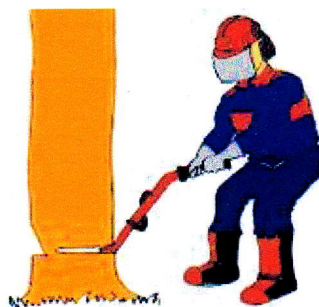
「フェリングレバー」(木回し)

種類はいくつかあるが、木を「倒す」「回す」「移動する」ときに使う。

「倒す」ときは、イラストのように追い口に差し込み、テコの原理を使って倒す。くさびの代わりに用いる。

「回す」ときは、伐木の際に枝に掛かり木などした際木にツメをかけて（写真）回しながら倒す。

「移動する」ときは、写真のようにして用いる。（爪をしっかり掛けること）



編集後記

昨年に続いてどうにか編集・発行にこぎつけることができた。資料・写真の提供、感想文寄稿などなど全面的な会員の労力結集のたまものである。ただ感謝あるのみ。しんどいけれども“毎年発行”を目標に掲げることは活動継続の上で大事である。会報の目的は第一義的には会員間での情報共有であるが、さらに我々の活動を情報発信して山を愛する人たちとの交流の手段として役立てることができればいいと思う。そうなればさらに活動が広がることを期待できるし、そのためにも定期的な発行が大切であることは言うまでもない。

今号から新たに「活動計画」を取り上げた。「活動報告」とともに我々の活動の積み重ねを振り返るうえで必要だと考えたからである。ところが、ときはコロナ禍の下、先の見通しが立たない状況にある。コロナとの闘いは長期戦になるだろうが、「3密」回避など当面の対応策も同時に必要である。我々の森林づくり活動も半永久的な活動であるが、台風被害などには迅速な対応が必要であるとともに、長期的な視点を持ちつつ年間計画に沿って着実に進めていくことが求められるので、会員の意欲的な意見を期待したい。

2020年度カレンダー 活動日：第1木曜・第3日曜（雨天・降雪・低温時は翌週同曜日に順延）

4月 2日(木) 19日(日)	5月 7日(木) 17日(日) みどりの日 4日(月)	6月 4日(木) 21日(日)	7月 2日(木) 19日(日) スポーツの日 24日(金)
8月 6日(木) 16日(日) 山の日 10日(月)	9月 3日(木) 20日(日)	10月 1日(木) 18日(日)	11月 5日(木) 15日(日) おおさか山の日 14日(土)
12月 3日(木) 20日(日)	1月 3日(日) 17日(日)	2月 4日(木) 21日(日)	3月 4日(木) 21日(日)

本山寺山森林づくりの会会報「あかがし」第4号

発行日：2020（令和2）年5月

発行者：本山寺山森林づくりの会

発行所：〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-4-22 梅田東ビル 3階 304号

公益社団法人日本山岳会関西支部内

編集者：倉谷邦雄

事務局連絡先：斧田一陽方 072-633-6556 FAX 072-633-6556

武田壽夫方 090-2042-9101

E-mail: enn-no-odunu@ares.eonet.ne.jp

ホームページ：「本山寺山森林づくりの会」と入力開いた画面の中で「活動記録」を選択